

## 採血のリスクマネジメントについて

座長 小川 和子（県立広島病院）

演者 大西 宏明（杏林大学）

### 採血のリスクマネジメントについて

#### リスクアセスメント

©大西 宏明<sup>1)</sup>

杏林大学医学部臨床検査医学<sup>1)</sup>

静脈採血は、他の観血的手技に比較して圧倒的に施行頻度が高いため、きわめて発生確率の低い合併症でも一定の頻度で生じうる。本講演では、標準採血法ガイドラインに基づいた適正な静脈採血法による採血合併症の予防について解説する。特に、翼状針の使用による神経損傷の予防については自施設での経験に基づき、その効果について述べる。併せて、採血時の患者トラブルの回避に向けた自施設の取り組みについても紹介したい。